

- |                |                 |              |
|----------------|-----------------|--------------|
| 01. 私が明日死ぬなら   | 08. 月光          | 14. 旅にでも出ようか |
| 02. 聖者の行進      | 09. Moonthief   | 15. 憧れのままに   |
| 03. トリガーハッピー   | 10. キュートアグレッション | 16. 青のすみか    |
| 04. 夢遊病者は此岸にて  | 11. 化け猫         | 17. スカー      |
| 05. 大人になっても    | 12. ラブソング       | 18. 悪魔の踊り方   |
| 06. ナイトルーティーン  | 13. ずうとっいっしょ!   | 19. 次回予告     |
| 07. 君が夜の海に還るまで |                 |              |

LIVE REPORT

10/6 sun. BLUE LIVE 広島

キタニタツヤ

目、耳、心。すべてを虜にする  
キタニタツヤの“美”がここに

海風も心地よくなった10月の広島。海岸沿いのライブハウス“BLUE LIVE”は、夏を取り戻すような熱気で溢れていた。キタニタツヤ、One Man Tour【ROUNDAABOUT】、満員の客席とステージを仕切る半透明の幕を今か今かと見つめる。定刻になり、生演奏に合わせてOPムービーが幕に映し出されると、客席では一斉に紫色のタオルが掲げられた。ツアータイトル【ROUNDAABOUT】の文字が映し出されると場内は拍手と歓声に包まれる。スタートナンバーは『私が明日死ぬなら』。スクリーンには歌詞も表示され“約束だよ”の歌声に合わせて観客は、小指を立て腕を上げる。続く『聖者の行進』では、目をモチーフにしたキタ

ニロゴが大量出現する映像と、演奏、照明が完璧にリンク。観客の誰もが圧倒される中、ラストサビでスクリーンが降り、キタニタツヤの姿を確認すると大歓声、そして「オーオーオー」と大合唱。勢いそのままに突入した3曲目は『トリガーハッピー』。客席との遮りがなくなったことで、キタニはステージ前方ギリギリの位置まで観客に近づきパフォーマンスする。その姿にオーディエンスの歌声も一段と大きくなっていった。この日最初のMCでは「楽曲の幅の広さ、統一感がないのが自分らしさ。それを感じてもらうツアーにしたい」と想いが語られた。次の曲は、ギターが刻むリズムが印象的な『夢遊病者は此岸にて』。楽曲の幅の広さは観客の手の動かし方にも表れていた。この曲で見られた手のひらを広げ前後に動かす所作をはじめ、力強く拳を掲げる上げ方、小指を立てて願うような美しさを持った上げ方。ライブ前半の段階でバリエーション豊かな楽曲展開に合わせた手の動きが印象的だった。

ライブ中盤では、月明かりのようなスポットライトに照らされ『君が夜の海に還るまで』を披露。



この曲で、キタニのベーシストとしての一面も見ることができた。続く『月光』では、複雑なリズムを完璧に乗りこなすキタニのボーカル力と、バンドメンバーの凄まじい演奏力が生み出すグルーブを堪能。そのまま流れるように『Moonthief』へ。イントロから一段と大きな拍手が響き渡る中、客席にマイクが向けられると観客はすぐさま大合唱。ここは、この日のハイライトの一つだった。しかし、ピークが訪れたわけではない。ここからのライブ後半戦、怒涛のたたみ掛け。『ラブソング』でアップモードにギアを入れると、エレキギターを持ったキタニとバンドメンバーによるセッションから『ずうとっいっしょ!』のイントロへ。大歓声を正面に受けながら激しくギターを掻き鳴らすロックな一面も。

この日最後のMCでは「音楽だけを聴いてもらって自分のことを全部理解してもらおうのは難しいかもしれないけど、ライブで目の前にいるお客さんには96%伝わってほしい」と語り、『青のすみか』をプレイ。さらに『スカー』を続ける。キタニの「歌おう!」の言葉に観客も大合唱。ステージとフロアのシンクロ率が100%に近づくなかも、キタニは攻撃の手を緩めることはなかった。続く『悪魔の踊り方』では、キタニが煽らずとも客席から今日いちばんの歌声が放たれた。大熱演となったライブの締めくくりは『次回予告』。観客も最後の体力を振り絞って呼応しライブ終了。「また会いましょう」の一言を残し、サッとステージを去る潔さも含めて、目・耳・心のすべてでキタニタツヤの音楽を通した“表現の美”を体感した夜だった。

